**第9回ＤＰＩ障害者政策討論集会　開催要綱（案）**

障害者権利条約がめざす差別のない社会へ

～いのちと尊厳が守られる社会をつくる～

◆日時：11月21日（土）13時－17時30分、11月22日（日）10時－13時30分
◆開催方法：ZOOM Webinar

◆参加費：無料

◇主催：認定ＮＰＯ法人ＤＰＩ日本会議
◇後援（予定）：日本労働組合総連合会、全日本自治団体労働組合、日本教職員組合、

 東京都労働組合連合会、日本放送労働組合、自治労東京都本部、全日本水道労働組合、

 全水道東京水道労働組合、全国労働組合連絡協議会、自治労都庁職員労働組合、

 東京交通労働組合、東京清掃労働組合、（宗）真如苑、ユースタイルラボラトリー（株）、

　 難民を助ける会（AAR Japan）、皆川商事（株）

■■ プログラム　案■■

※敬称略、順不同

**11月21日（土）13時－17時30分**

新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大によって、本年３月の第23会期障害者権利委員会は延期され、夏の権利委員会もオンラインで開催され、建設的対話と総括所見の採択はなく、事前質問事項の採択のみとなった。本年夏に予定されていた日本の建設的対話（審査）は来年夏の会期で実施される見込みとなっている。また、昨秋に権利委員会から日本政府に出された重点課題である事前質問事項の回答期限も本年12月１日に延期されている。

　このような状況の中、石川准障害者権利委員会副委員長をお招きし、権利委員会の現在の状況と来年の日本の建設的対話に向けて日本に求められることをお話しいただく。

シンポジウムでは、JDFパラレルレポートについて取り上げる。DPIはJDFの一員として2017年からパラレルレポート作成に携わり、本年8月には建設的対話向けのパラレルレポート第二弾が完成した。来年の建設的対話に向けて、重要課題についてパラレルレポートのポイントと課題を報告する。

・開会式、主催者挨拶、来賓挨拶 13時－13時30分

■全体会 13時30分－15時45分

13時30分－14時

基調講演「障害者権利条約の動向～日本に求められるもの～」

報告：石川　准（障害者権利委員会副委員長／障害者政策委員会委員長）

14時10分－15時30分

〇シンポジウム「障害者権利委員会へのJDFのパラレルレポートと課題」

シンポジスト： 佐藤　久夫（日本社会事業大学名誉教授、JD理事、JDFパラレポ特別委員会委員）

長瀬　修（立命館大学教授、JDFパラレルレポート特別委員会委員）、

黒岩 海映（弁護士、日弁連障害者権利条約パラレルレポート作成PT事務局長）

 藤原　久美子（DPI日本会議常任委員／DPI女性障害者ネットワーク代表）

 コメンテーター： 石川　准（障害者権利委員会副委員長／障害者政策委員会委員長）

コーディネーター： 尾上　浩二（DPI日本会議副議長）

15時40分－16時20分

〇生きるための法制度を～京都ALS女性嘱託殺人事件から～

・報告 　 日本自立生活センター（25分）

岡部 宏生(ALS/MNDサポートセンターさくら会副理事長) （10分）

・ビデオメッセージ（5分） 舩後 靖彦参議院議員（れいわ新選組）

16時20分－16時30分　休憩

16時30分－17時30分

■バリアフリー分科会「公立小中学校のバリアフリー化と新幹線のバリアフリー対策　〜私たちの声を施策に！〜」

今年のバリアフリー法改正の最大の成果は、公立小中学校のバリアフリー整備が義務化されたことである。文部科学省では法改正を受けて「学校施設のバリアフリー化等の推進に関する調査研究協力者会議」を立ち上げ整備計画の策定に取り掛かっている。会議には日本障害フォーラムが委員として参加し、DPIもJDF構成団体として積極的に意見提起に関わっている。既存の学校も含め計画的にバリアフリー整備を推し進めるために何が必要か、これまでの議論と緊急提言について報告する。

昨年末から始まった新幹線のバリアフリー対策検討会は8ヶ月のワーキングを経て８月２８日に最終取りまとめが公表された。DPIからは積極的な提案を行い、多くが最終取りまとめに盛り込まれた。車椅子席の増設、webでの予約・発券、窓口での迅速な予約発券はどうなるのか、今後の整備も含めて報告する。

■第一部「公立小中学校のバリアフリー化」

報告：尾上浩二（DPI日本会議副議長）

■第二部　「新幹線のバリアフリー対策検討会と最終取りまとめ：

報告：佐藤　聡（DPI日本会議事務局長）

**11月22日（日）10時－13時30分**

10時－11時30分

■障害女性＆国際協力分科会「新型コロナウイルス禍の中、SDGｓをどう達成するのか」

生活と仕事に影響をあたえた世界的危機で、障害者の健康状態や、情報やサービスを含むアクセシビリティの制限がみられた。女性を中心に障害者の根本的な不平等に目を向け、悪化するリスクの中で「誰一人取り残さず」COVID-19と共存していくか考える。

10時 開会挨拶 中西由起子（DPI日本会議副議長）

10時5分-10時40分

〇基調講演「COVID-19とSDGs　―　障害女性など最も影響を受けやすい人の立場から」

国連はCOVID-19の危機にCRPDとSDGsに沿った障害者の権利確保のため行動を起こし、８月にはフォーラム「COVID-19危機と障害者:すべての人のための包括的でアクセス可能で持続可能な世界に向けてより良い構築」を開催した。

報告者：伊東亜紀子（国連経済社会局障害者権利条約事務所チーフ）

10時40分-10時50分　質疑

10時50分-11時25分

〇報告：「コロナ禍での障害女性の声」

DPI女性障害者ネットワークでは、新型コロナウイルスの影響を受けた障害女性の声を集めて、4月に首相や男女共同参画担当に宛て要望書を提出した。要望書の内容と合わせて、いくつかの事例を報告する。

報告者：佐々木貞子（DPI日本会議常任委員/DPI女性障害者ネットワーク・メンバー）

11時25分-11時30分

〇閉会/まとめ　平野みどり（DPI日本会議議長）

〇司会　藤原久美子（DPI日本会議常任委員）

休憩（11時30分-11時45分）

11時45分－13時15分

地域生活＆権利擁護分科会「権利侵害にNO！誰もが地域で生きるために～精神病棟・筋ジス病棟の現状と地域移行について語り、考える～」

 日本では、多くの障害者が望まない長期入院・入所を余儀なくされ、地域社会から隔離された生活を送っている。国連障害者権利条約の国内完全履行に向け、どうすれば脱施設・長期入院解消されるかを考えたい。

　本セッションでは、精神病棟および旧国立療養所の筋ジストロフィー病棟について取り上げる。精神病棟では、以前から身体拘束や虐待など深刻な人権侵害が課題となっている。コロナ禍で長期にわたる面会禁止・外出制限が続き、外部からの監視の目がなくなる中、より深刻な人権侵害が懸念される。コロナ禍における精神病棟の現状・地域移行の課題について報告する。

　精神病棟と同様、長期入院からの地域移行が課題となっている筋ジス病棟に関し、最近地域移行をした女性2名・支援者から話を聴き、障害女性の視点も交え、現場での課題や今後に生かせる取り組みを学ぶ。その後、全体討論では、より多くの仲間が地域移行するために必要となる制度政策・取り組み等について考えたい。

11時45分-11時50分　本セッションの趣旨説明（DPIビジョンなど方向性）

11時50分-12時20分　シンポジウム「コロナ禍における精神病棟の現状・地域移行の課題」

吉田明彦（兵庫県精神医療人権センター）

松本葉子（埼玉県精神医療人権センター）

加藤真規子（精神障害者ピアサポートセンターこらーる・たいとう代表、DPI日本会議常任委員）

12時20分-12時50分　「筋ジス病棟からの地域移行報告」

吉成 亜実（北海道で約15 年の入院生活を経て、2020 年6 月より自立生活）

筋ジス病棟長期入院の当事者（千葉で約15 年の入院生活を経て、2019 年10 月より自立生活）

秋元 妙美（CIL ちょうふ）、

岡山 祐美（日本自立生活センター)

12時50分-13時10分　「全体討論」

13時10分-13時15分　まとめ

○コーディネーター

今村　登（DPI日本会議事務局次長）

13時30分 閉会の挨拶、終了

以上